

## 看護臨床スーパービジョンの基礎モデルの開発

代表者：看護学科 清水健史

メンバー：看護学科 村上眞須美・手塚祐美子

### 研究の目的

スーパービジョンは19世紀の終わりにアメリカでソーシャルワークの労働領域で開発され、その後、その対象領域を拡大してきた(木下2008)。そして、現在では、職業的に他人とかかわる中で、その人がプロフェッショナルとして最も好ましいサービスを提供できるための指導及び援助の一方法と考えられている(深澤2005)。しかし、看護の領域では、これまで臨床看護師へのスーパービジョンの研究の蓄積は乏しく、早急に看護領域に適した新たな方法を築いていく必要がある。スーパービジョンの機能については一般に、管理的機能、教育的機能、支持的機能の3つがあることが知られている(黒川1996)。なかでも、支持的な機能は他の2つの機能の基盤であることから(村田2010)、本研究では、スーパービジョンの支持的機能に焦点を当て、看護臨床スーパービジョンの基礎モデルを開発をめざし、モデルに必要な要素を抽出することを目的とした。

### 調査内容

1. 対象者：看護師(一般科・精神科)9名
2. 方法：臨床現場で困難だと感じた場面に対してPAC分析(Personal Attitude Construct: 個人別態度構造)を用いてその構造を明らかにした。
3. PAC分析によって得られたインタビューのうち、カウンセリング効果があると考えられる内容を質的に分析した。

### 結 果

インタビュー内容を分析した結果、以下の3つのカテゴリーが抽出された。

1. 困難場面の同定：困っている自分自身への理解の促進。
  2. 客観的に振り返ることによる反省的実践の試み。
  3. 自身が目指す看護の再確認と課題の認識。
- これらは相互に関連して成立していることが明らかになった。

### 今後の展望

- ・今後は、対象者を拡大することにより、看護臨床スーパービジョンの基礎的な要素を明らかにする必要がある。
- ・実際に臨床看護師にスーパービジョンを行い、どのような効果があるのかを明らかにする必要がある。